

クールアースいばらき

●●●●● 茨城県地球温暖化防止活動推進センターだより ●●●●●

「2025.2.20 日本科学未来館 茨城県 2 団体が受賞」 〈長方屋・取手市立取手西小学校〉

「脱炭素チャレンジカップ」は、学校・企業・自治体などの多様な団体が展開している脱炭素を目的とした地球温暖化防止に関する地域活動について、書類審査、プレゼンテーション審査を行い、優れた取組を表彰している全国大会です。地球温暖化防止全国ネットとセブン-イレブン記念財団が共催し、賛同いただく事業所の協賛、環境省・文部科学省が後援するアワードとして15年目となります。本年度の大会には、全国応募の中から厳選された審査を経てファイナリストとなった21団体の活動動画による最終審査が行われ、大臣表彰7団体を含む各賞が決まりました。

茨城県からは昨年8月25日に当センターが主催した予選会(クールアースいばらき大会)で最優秀となった「長方屋」とセンター推薦により選出された「取手市立取手西小学校」の2団体を選考会へ提出。事務局審査の結果、2団体ともにファイナリストになることができました。当日、会場の日本科学未来館には出場団体、地球温暖化防止活動推進員や協賛団体など約200人が来場されました。

最優秀地域活性化賞「長方屋」

(次頁へ続く)



最優秀わくわく未来賞「取手市立取手西小学校」



INDEX

脱炭素チャレンジカップ 2025 のご報告・・・P1～P3
 カーボンニュートラルフォーラム 2024
 (第3回推進員研修会) を開催・・・P4
 SDGs フォーラム 2025
 (第4回推進員研修会) を開催しました・・・P5

潤沼水鳥・湿地センターがオープン・・・P6
 2025 年度エコ・カレッジ
 (職域アドバンスコース) のご案内・・・P7
 推進員活動報告レポート・・・P8
 2024 年度釣り魚有効活用事業結果のご報告・・・P8



脱炭素チャレンジカップ 2025 のご報告

<受賞内容>

・長方屋「最優秀地域活性化賞 セブン-イレブン記念財団より授与」

稲作が盛んな茨城県では、稲刈り後に残る稲わら・もみ殻が地域の農業協同組合へ多量に運び込まれます。もみ殻は固く、肥料にもならないため、最終的には残渣として組合から清掃センターへ運ばれて焼却されてしまいます。地産地消の加工食品を作り続けてきた長方屋に、JA や米穀問屋等から、もみ殻を何とかしてほしいと相談を受けたことがきっかけで、CO₂を排出しない製造方法によりシリカを抽出。

抽出シリカから「サプリメント」の開発を進めて商品化に繋がりました。削減できた CO₂ は焼却処理と残渣の最終処分にかかる量の合計で約 100 トン/年となります。発売から 1 年半、今では県内自治体のふるさと納税の返礼品などにも活用いただいています。大会では脱炭素を推進した環境省の新たな国民運動「デコ活」の実装として大変な注目を浴びました。



・取手市立取手西小学校「最優秀わくわく未来賞 SOMPO 環境財団より授与」

2024 大会で見事に環境大臣賞金賞を受賞した「脱炭素チャレンジ広場」が 2 年目を迎えました。広場では、給食残渣肥料の有効性を検証するための畑を作り、カーボンオフセットのために植樹をしました。自分たちのより良い未来のために何かできることはないか児童主体で議論して実践。大学教授、大学生、企業、行政などとも協働して、CO₂削減効果を計算、学校内の使用エネルギーについて「見える化」をしています。取手西小学校の取組は、全国の小学校が行うことが出来る SDGs の取組み事例として、本大会においても高い評価が得られました。



<受賞式の様子>



長方屋「最優秀地域活性化賞」



受賞スピーチ「長方屋」



取手西小学校「最優秀わくわく未来賞」



受賞スピーチ「取手西小学校」



脱炭素チャレンジカップ 2025
特別講演会の様子



審査委員長 江守正多 先生



大会アンバサダー
浅利圭吾さん(左)・高橋克英さん(右)
推進員の久保武彦さん(中央)

受賞者一覧はこちらとなります⇒<https://www.zenkoku-net.org/datsutanso/>

<脱炭素チャレンジカップ 2025 参加者交流会>

全てのプログラム終了後、会場では「参加者交流会」が行われ、総合司会の櫻田彩子エコアナウンサー (<https://eco-announcer.com/>) と 脱炭素チャレンジカップ事務局 全国ネットの平田裕之事務局長の進行により約2時間の交流会が開催されました。茨城県出身で大会アンバサダーの高橋克英さん(茨城県地球温暖化防止活動推進員 東邦大学大学院修士課程1年、浅利圭吾さん(逆川こどもエコクラブ tv asahi 危険生物博士ちゃん 高校1年 <https://sakasagawaeco.blogspot.com/>) も受賞団体を盛り上げていました。

<脱炭素チャレンジカップ 2024 主催・協賛団体一覧>

- 主催 脱炭素チャレンジカップ実行委員会
- 委員長 小宮山 宏 (三菱総合研究所 理事長)
- 共催 地球温暖化防止全国ネット、セブン-イレブン記念財団
- 特別協賛 ユニ・チャーム、ニトリ
- ◎協賛団体(当センターの会員事業所)
 - レンゴー、サラヤ、JX 金属環境、北越コーポレーション、アクトリー、日省エンジニアリング
 - ダイキン HVAC ソリューション東京、インターテック・サーティフィケーション、ECI
 - Pure Cycle いばらき、エコツエー技術研究所、てらじま、リビング館ホンダ
 - 協力：キリンホールディングス (飲み物提供)
- 協賛団体 日本WPA、新田ゼラチン、炭素会計アドバイザー協会、日本マクドナルド、SOMPO 環境財団、ウェイストボックス、チェックフィールド、脱炭素化支援、i3experience、エコドライブ研究所、フエニックス・コンタクト



カーボンニュートラルフォーラム 2024(第3回推進員研修会)を開催

本年度で3年目となるカーボンニュートラルフォーラム 2024 を第3回推進員研修会として開催いたしました。

地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、活力が最大限に発揮されることを『活動できる・発信できる・達成できる』地域の脱炭素化を進めていくため、自治体・企業・市民を交え12月8日(日)に開催しました。当日は100人を超える方々に来場いただきました。

講演者との交流も行えるなど、盛況な場となりました。



会場の様子



磐田朋子氏

【1. 高効率かつ低炭素な未来のエネルギーシステム】

はじめに基調講演として芝浦工業大学副学長 (SDGs 推進室長・DE&I 推進室長兼務) 磐田朋子氏より、角度を変えた視点から、身の回りにある省エネ、蓄エネに関して興味を持ち、楽しみながら低炭素に進むことを進めていくことを伝えられました。

【2. 経済産業省の自治体へ向けた支援事業の方向性】

経済産業省 関東経済産業局 資源エネルギー環境部 カーボンニュートラル推進課の西島崇氏から、次年度に向けた「脱炭素補助と支援の施策について」主に自治体向け・企業向けに分けて解説いただきました。当日は、県内自治体職員の方も多く来場されており、新年度以降における方向性の確認に役立ったと思います。

【3. 地域プレーヤーから脱炭素の実装】

令和6年度に受付した「カーボンニュートラル無料相談室」に寄せられた中から、具体的な実装につなげていただいた施工プレーヤー2社に登壇いただきました。窓ガラスの遮熱を行う株式会社エコツー技術研究所 石井直也氏、遮熱断熱の施工を行う株式会社LIXIL 大石英明氏、つくば住生活株式会社 前島聡一氏から、各種省エネ対策の実装効果について説明いただきました。来場者からは、次のリフォームの際に考えたいと感想が寄せられました。



前島聡一氏

【4. 自治体の気候変動と再生可能エネルギービジョン策定について】

当センターでは、県内自治体や事業所の脱炭素に向けたビジョン策定を支援させていただいております。

その際、気候変動分野の専門家として協力いただいている環境省 関東地方環境事務所環境対策課 地域適応推進専門官の川原博満氏より、自治体ビジョン策定の在り方について解説いただきました。まずは、地域の生態系や環境に関する熟知が必要で、既に、環境保全や脱炭素に向けて自治体と協働している事業所や団体と委員会組織等を設け、市民が望んでいることを正確に把握し、地域の環境に沿ったビジョンの策定が望ましいとアドバイスをいただきました。

【5. 茨城県地球温暖化防止活動推進員の活動報告】

去る11月10日にオープンしたラムサール涸沼水鳥・湿地センターの開館にあたり、涸沼ネイチャーガイドとなっている大久保知恵推進員、立川記子推進員、穂積裕太推進員と子供たちが涸沼の魅力を発信するため作成したPR動画を放映いただきました。動画には、水鳥観察の場として、ハゼ釣りの場として、地産地消の場としてのワイズユースが盛り込まれていました。

開催にご尽力、ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。



茨城県推進員の皆様



SDGs フォーラム 2025(第4回推進員研修会)を開催しました

1月27日(土)、21回目を迎える「SDGs フォーラム」を第4回推進員研修会として水戸プラザホテルで開催いたしました。このフォーラムは逆川こどもエコクラブが共催し、子供たちの脱炭素とSDGsの発表を推進員が視聴することで幅広い年代の意識高揚を目的としております。自治体・企業・推進員・学生など約100人の方にご参加いただきました。



SDGs フォーラム 2025の様子

Part. 1では、ごかつら池どうぶつパークの園長である高橋文彦氏より「象使いから温暖化防止活動を経て動物園の園長へ」と題して、

三重県多気町に所在するごかつら池どうぶつパークの取り組み事例を、エコアナウンサー櫻田彩子氏より「SDGsをジブンゴトに「エコロジーとエコノミー」を応援」と題してSDGsの概要やその影響力と未来、ごみの埋め立て処分場やリサイクルなどご説明いただきました。



壁新聞の発表

Part. 2では、脱炭素チャレンジカップ 2025 ファイナリストの壮行会として、有限会社マテリアル茨城・長方屋の坂入和江氏から「残渣となるもみ殻をシリカサブリにするサーキュラーエコノミー取組事例」のご紹介や、ボーイスカウトカブ団からフードロスに関する取り組みの発表、公益財団法人日本環境協会教育事業部長兼こどもエコクラブ事務局長の東尚子氏より「こどもエコクラブを通じて次代を担うリーダーに！」と題し、全国各地の活動紹介をいただきました。その後、こどもエコクラブのメンバーから「SDGs 壁新聞」の発表をいただきました。

Part. 3では、今年度に当センターで実施した、二酸化炭素削減に繋げる行動変容キャンペーン「いばらきデコ活チャレンジカップ 2024」の表彰式を行いました。当催しは6月から12月の期間中に、取り組みたい二酸化炭素削減行動計画を提出いただき、実行できたものを報告いただくキャンペーンです。

応募は647件あり、そのうち148件の方々に結果の提出をいただきました。事務局審査をさせていただき、優秀な取り組みと認められた個人・企業・団体48名の方に対し、事務局賞、理事長賞、センター長賞、県知事賞の4部門に分けて表彰させていただきました。



受賞者代表スピーチ

名前を読み上げた受賞者に壇上に上がっていただき、表彰状と記念品を贈呈いたしました。

各部門から代表の方にスピーチをいただいた際には、受賞への感謝やそれぞれの環境問題に対する考え、脱炭素の取り組みの紹介、またこれからも意欲的に頑張っていきたいというお言葉を頂戴いたしました。日常生活の中からエコを加えよとする気持ちがデコ活に繋がることを実感しました。当センターも、温暖化防止の普及が更に拡大していくように取り組んでいこうと身が引き締まる思いでした。

フォーラム開催にあたり、ご尽力、ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。



表彰状授与



涸沼水鳥・湿地センターがオープン

2015年5月28日、ラムサール条約登録湿地となった涸沼は関東唯一の汽水湖として、ヤマトシジミやウナギなどの様々な生きものが生息し、特にスズガモなどの渡り鳥にとっては、越冬地としての役割を果たしています。昨年11月、豊かな自然に恵まれた涸沼湖畔に「涸沼水鳥・湿地センター」がオープンしました。

水鳥湿地センターは2つの施設があり、銚田市みのわ水鳥公園には眺望を楽しめ、涸沼湖面を一望できる観察棟「鈴の音テラス」が、茨城町には涸沼に関する多種多様な動植物を紹介する展示室・ライブラリー等の「展示施設」が整備されました。

銚田町の野鳥観察棟「鈴の音テラス」では2階に望遠鏡が10台設置しており、湖面に浮かぶ水鳥などを間近で観察でき、手ぶらで野鳥観察を楽しめるようになっています。屋上テラスは涸沼が一望できる眺望が楽しめます。公園内には子供たちが遊べる遊具もあって、天気の良い週末には多くの家族連れで賑わっています。オープン当初、涸沼ラムサールネイチャーガイド講座をこの場所で初開催し、新たな公園で水辺の生き物講座を実施したところです。

茨城町の展示施設では、涸沼に棲む様々な生き物の写真や豊かな生態系の紹介パネルにより、涸沼の歴史からこれまでの変遷を含めて学ぶことができます。また、水槽展示もあり、汽水から淡水までの生き物を目の前に見ることができます。シジミ漁の体験コーナーや漁具も置いてあり、水産資源のことも学ぶことができます。

両施設とも、オープン後となった最初の冬は、水鳥、冬鳥の観察に来られた方が多く訪れ、県内外からのお客様で賑わいました。

茨城町の展示施設では、土日祝日に限りますが、当センターの専門職員などが常駐し、来場された方々に涸沼の魅力を伝えるガイドを行っています。

令和7年度の茨城町主催：涸沼環境学習会は、これまでの涸沼自然公園から当展示施設に集合となり、水辺の体験学習会、昆虫観察会、ハゼ釣り体験、水鳥観察会など、年間12回を開催される予定です。

すぐ近くのヨシ原はヒヌマイトトンボが世界で初めて見つかった場所です。発見は1971年7月7日、それから50年以上の現在まで、このヨシ原で飛び回っています。学習会の日程は5月はじめに茨城町と当協会のHPに掲載予定です。

水鳥湿地センター休館日は毎週月曜日（祝日、振替休日の場合は翌日）及び年末年始となっています、開館時間は午前9時半から午後4時半です。関東唯一の汽水湖涸沼はネイチャー体験が目白押しです。皆様ぜひ、ご来場ください。

★涸沼・水鳥湿地センターの場所は以下のとおりです。

観察施設：銚田市側 銚田市箕輪 1754 番地

展示施設：茨城町側 東茨城郡茨城町下石崎 2585 番 4



銚田市側：ガイド講座の様子



茨城町側：展示施設の様子



涸沼環境学習会でハゼ釣り体験



涸沼環境学習会で水鳥観察

2025 年度エコ・カレッジ(職域アドバンスコース)のご案内

当講座は地球温暖化防止や脱炭素に関する我が国の最新情報を伝え、新たに推進員への登録を希望される方と既に推進員として活動している方々を対象に学んでいただくための環境教養講座です。

職域アドバンスコースは、過年度にエコ・カレッジを修了したOBの方及び地球温暖化防止活動推進員の方を対象に、共通テーマについての研究・討議の他、有識者の講義・事例発表など一連の研修を通じて知識の習得などを図ることを目的としています。はじめて受講いただくエコ・カレッジ職域コース(年6回)の40名の方々と一緒に、受講して修了証が授与される大変人気のある講座です。アドバンスコースの残席は残りわずかとなっております。

参加希望の方は必要事項(お名前・ご住所・ご連絡先(携帯)・E-mail)をご記入の上FAX又はe-mail ibaonse@kankyokanri.or.jp までお申込みください。費用は第1回～第3回の昼食、第4回視察会のバス代を含み、全工程で1万円となります。※アドバンスコース(全4回)が定員(40名)となった際には、職域コース(全6回)での受付案内をさせていただきます。受講ご希望の方はお早めにお申込みください。

本セミナーは環境補助事業「地域における地球温暖化防止活動促進事業」の一環として、事業所の「脱炭素」の実現化に向けた具体的な支援や活用等の紹介もしています。

【第1回】7月24日(木)PART1 10:00～12:00 PART2 13:30～16:00 ホテルレイクビュー水戸

<テーマ:CO2削減の実装と脱炭素への行動変容>

PART1 CO2削減の実装

「企業団体におけるCO2の見える化と削減の方法」アスエネ株式会社 営業本部 営業部 勝田雄大氏

「エコラックの普及に向けて:最終処分廃棄物の資源循環」新日本電工株式会社 執行役員 鹿島工場長 平田敦嗣氏

PART2 脱炭素への行動変容

「省エネ再エネ建築の最新情報」株式会社LIXIL 営業本部 北関東ブロック長 大石英明氏

「JALの脱炭素の取組とJALホテルのSDGs」

ホテル日航つくば・ホテルJALシティつくば 代表取締役社長 石田奈緒子氏

【第2回】8月22日(金) 13:30～17:00 ホテルレイクビュー水戸

<テーマ:企業のための廃棄物法令と地域協働デコ活SDGs>

「ラムサール登録湿地を守り発展に導くスピリット」ユースラムサールジャパン

「クールアースいばらき2025大会(脱炭素チャレンジカップ2026予選会)」

【第3回】9月26日(金)PART1 10:00～12:00 PART2 13:00～17:00 ホテルレイクビュー水戸

<テーマ:生物多様性と世界を動かすGX>

PART1 生物多様性

「地球レベル・地域レベルの生物多様性異変と生態リスク」

国立環境研究所 生物多様性領域 生態リスク評価・対策研究室 室長 五箇公一氏

PART2 世界を動かすGX

「我が国気候危機の警笛を鳴らす第一人者」東京大学 名誉教授 山本良一氏

「世界が驚愕 ペロブスカイト太陽電池の発明者」桐蔭横浜大学 特任教授 教授 宮坂 力氏

「ヒュンダイグループが導く最先端のカーボンニュートラル」

現代ジャパン株式会社 代表取締役社長 沈 洪受氏

「ボトル to ボトルからプラ to プラを目指して」

サントリーホールディングス株式会社 サステナビリティ経営推進本部 上席担当部長 横井恒彦氏

「パネルディスカッション」

コーディネーター 山梨大学 水素燃料電池ナノ材料研究センター 研究企画部門長 教授 吉積 潔氏



【第4回】10月17日(金)8:30～17:00

<見学視察会>

新しいテーマパーク「霞ヶ浦どうぶつとみんなのいえ」(行方市)

ラムサール登録湿地涸沼「水鳥湿地センター展示施設」(茨城町)

【閉講式】2026年1月23日(金)13:00～15:30 ホテルレイクビュー水戸

<テーマ:地球温暖化防止活動推進員の事例報告>

「地球温暖化防止活動推進員としての取組み事例」

「閉講式」修了証書授与、謝辞、記念撮影



推進員活動報告レポート

推進員の皆様の活動報告を、写真を添えて一言お寄せください

久米樹・大久保武彦 推進員(水戸市)

トンボや自然環境を守る保全活動のうち冬のヨシの刈り取りをしました



岡村光雄 推進員(那珂市)

那珂市の児童生徒向けに、伐倒・皮むき・木登り等を体験する森林体験会を実施



西口利雄 推進員(鹿嶋市)

鹿嶋市の「アースフェスタ」(環境展)に参加「マイSDGs」等を記入するブースを実施



齋藤孝敏 推進員(高萩市)

高萩市開催、みんなの消費生活展に参加エコランタン作りを実施



南繁三郎 推進員(結城市)

第19回土浦環境展に参加ブースにてうちエコ診断を実施



黒川雄輝 推進員(桜川市)

水戸ホーリーホックゲームで、SDGsバッジ・エコランタン作りを実施



当センターは「地球温暖化防止対策の推進に関する法律」により、平成16年10月茨城県知事より、茨城県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けて活動しております。県民の皆様に向けて温暖化防止に関する普及啓発や広報活動を行うとともに、茨城県や市町村、各種団体、事業所、地球温暖化防止活動推進員と連携・協力して各種イベント・フォーラム・環境学習会などの実施と情報提供を行っています。

2024年度釣り魚有効活用事業結果のご報告

2024年度の新たな茨城県事業として行われた「霞ヶ浦・釣れた魚(主に外来魚)の回収に関する運営・進行に協力させていただきました。

6月から2月の期間中に月に1回、北浦側、霞ヶ浦側の2拠点で釣り人から持ち込まれる魚を集めました。

回収魚は肥料にアップサイクルして有効活用されます。最終2月までに集まった魚の合計匹数は938尾、

そのうち特定外来種のアメリカナマズが715尾と全体の約80%となり、霞ヶ浦においてアメリカナマズの



多さがうかがえる結果となりました。6月、10月に開催した「外来魚フ

ィッシング体験学習会」も各回親子連れを中心に約130名の方にご参加いただきまして、盛況のうちに終えることができました。

2025年度も霞ヶ浦に限らず、外来魚を対象とした体験学習などを実施いたしますので、是非ご参加いただければと思います。



編集・発行：茨城県地球温暖化防止活動推進センター(一般社団法人 茨城県環境管理協会)

住所：〒310-0836 水戸市元吉田町1736-20 TEL:029-248-7431 FAX:029-240-1270

E-mail:ibaonse@kankyokanri.or.jp URL:http://www.kankyokanri.or.jp